

(5) 入賞

部門	最優秀	優 秀
高校	福島女子	白河女子, 会津女子,
一般	なし	会津演研, 喜多方演研
職場	福鉄クラブ	呉羽化学演劇部
青年	なし	なし (奨励賞) 昭和村小野川青年団, たいまつ演劇サークル

個人賞

高校	演技賞	7
	脚本賞	1
	舞台装置賞	1
	舞台美術賞	1
一般	演技賞	4
職場	演技賞	4
	舞台装置賞	2
	舞台監督賞	1
	効果賞	1
	演技賞	3

(6) 審査評

高校の部では創作が多かったことは喜ばしいが、創作する素地をもっと養うことが必要である。それには日常生活のスケッチが大切である。今後とも新しい作品に努力を重ねてほしい。

一般、職場、青年の部では、学生と相違して練習が困難であり、資金も不足であろうが、地域に根をおろして、研究できるのであるからレベルをもっと高くなってもよいのではないか。また高校演劇より声が小さいので発声練習に努力してほしい。既製脚本を使用する場合は脚本の読みとりにもっと深まりがほしい演劇開始前のアナウンスが筋書や出演者の紹介まで行なうのはアマチュアの場合必要でないと思う。

5 第5回青少年演劇研究発表会

文部省の助成により第5回の研究発表会を開催し、各地区の演劇活動を促進した。文部省の助成は従来のおよそ半分から約四分の一に減額された。

(1) 東北地区青年演劇指導者講習会

文部省と共催で実施された。

- ① 期 日 36.8.6~8
- ② 会 場 飯坂町 県婦人会館
- ③ 参加県 東北 6 県
- ④ 講 師 大木 靖 (俳優座)
原 千代海 (劇作家)
- ⑤ 参加者 高校関係者 40名
一 般 28名

⑥ 内容

ア 青年演劇のあり方、青年演劇活動上の諸問題について研究討議

イ 地方演劇団体の上演劇を素材として脚本、演出、演技、舞台効果等について実技指導

ウ 課題脚本による読み合せの実習および演技の基礎訓練(「父帰る」使用)

(2) 青少年演劇研究発表会

研究を委嘱してある県内青年演劇団体の委嘱上演と各地区劇団との共同研究および公演を行ない、青少年団体の演劇活動を推進した。

① 南会津郡田島町(田島小)

36.12.3~4 参加人員 71名

② 石川郡石川町会場(石川小)

36.2.10~11 参加人員 160名

③ 内容 演劇の創り方と基礎訓練

メイクアップの実技指導, 上演と実技指導

④ 講師 大木 靖 (俳優座)

6 第10回福島県文化功労賞

文化功労賞は「福島県文化功労賞に関する規則」により、11月3日文化の日に永年学術文化(芸術、科学)の向上発展に貢献した者に賞金5万円と文化功労賞を添えて授与するものである。

本年度は次の方々に授与された。

満山長左衛門 (会津若松市, 地学)

天野 竜雄 (田村郡三春町, 短歌)

第1回より通算して14名となった。

なお詳細は「教育行政」参照のこと。

7 文化振興対策の協議会と調査

昭和36年度の文化行政上、特筆すべきことは、文化振興対策のため、文化人学識経験者を招き、文化諸般に関する意見を聴き、これを行政の上に反映し、地についた芸術文化の振興をはかったことである。

主として御意見を承った人々は次のとおり。

福大教授 平井 博 社会教育委員

〃 川村安太郎

〃 山川 忠義

〃 和田 甫

評論家 渡辺 到源

文化担当記者 高橋良一郎 民友社

〃 横田 新 民報社

社会教育委員 今泉 正顕

12月下旬には、山川、渡辺委員が事務局職員と共に、千葉、神奈川、東京の文化施設と、芸術文化行政について、視察を行なった。

主として諮問したのは、美術行政と文化財の活用についてであり、東京在住美術家との協議や、会津文化史展には特に貴重な意見がもたらされた。